

逆走の実態に関する参考データ

1. 逆走の発生実態（NEXCO 西日本調べ）

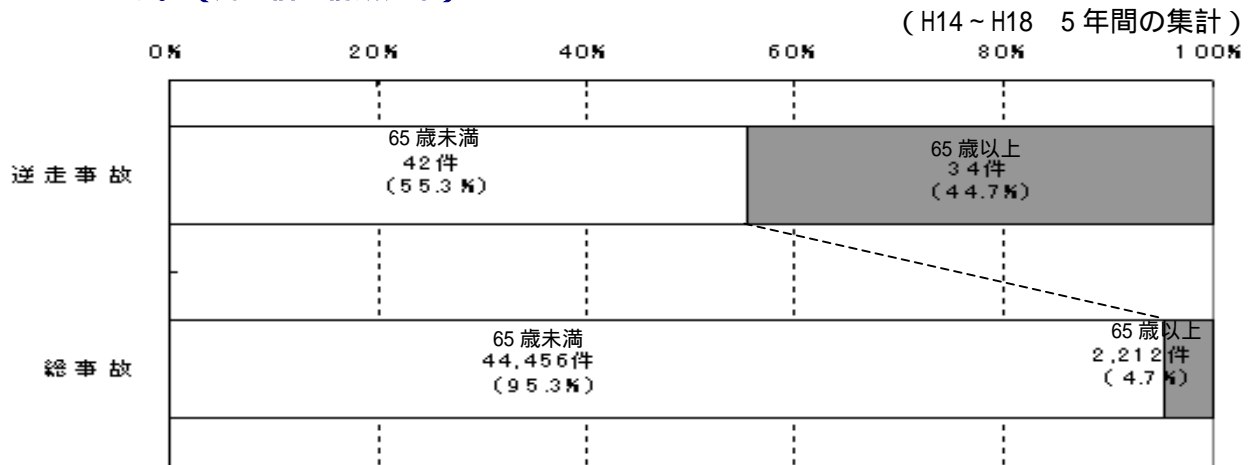
西日本管内

	H14	H15	H16	H17	H18	H19	平均
逆走事案件数	393	421	492	427	388	371	415
逆走事故	12	26	21	14	12	10	16
死傷事故	10	10	11	7	4	7	8
死亡事故	5	2	3	2	0	1	2
死亡者	5	2	3	3	0	1	2

逆走事案件数とは、道路管制センターに通報や報告等があった件数である。

2. 高齢者の逆走事故状況（NEXCO 西日本管内とりまとめ）

65歳以上が占める割合は、総事故では4.7%であるのに対して、逆走事故では44.7%となっています。（約9倍の構成比率）



65歳以上の逆走事故件数と総事故件数
※年齢不明分は除く

3. 逆走発生箇所の推定

【逆走発生箇所の割合】：逆走事故のうち、逆走発生箇所が確認されたものの割合

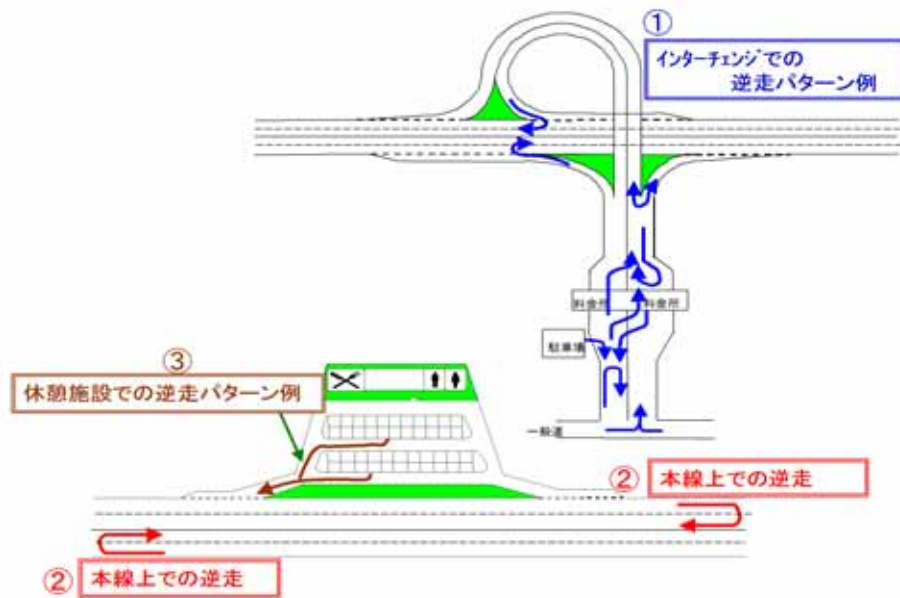
【西日本管内：NEXCO 西日本調べ】：H14～H18 5年間の集計

	件数(件)	割合(%)
インターチェンジ	25	30 (42)
本線	21	25 (36)
SA・PA	13	15 (22)
不明	26	30
計	85	100 (100)

()内の数字は、不明を除く発生件数の割合

逆走発生箇所とは、当該運転者に逆走を始めた場所を聞き取り調査したもの

【逆走発生が想定される箇所：逆走パターン例】



今までの NEXCO 西日本の逆走対策の取り組み

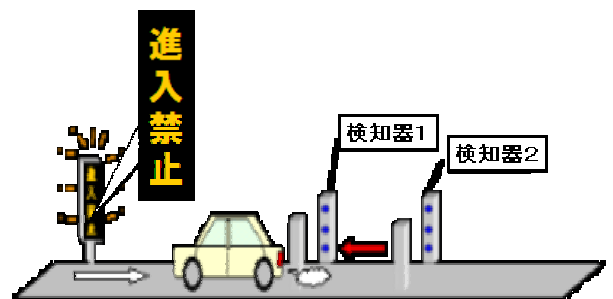
平成 6 年 10 月：IC、SA・PA の進入禁止標識の点検、
逆走発生箇所への路面標示の追加



平成 12 年 8 月：逆走防止標識等の緊急点検

平成 13 年 8 月：山陽道小谷 SA（上）に逆走センサーを設置

（以降、平成 19 年度までに 西名阪道天理 PA(下)、中国道王司 PA(下)、九州道吉志 PA(下)、
新名神甲南 PA(上下)に設置）



平成 16 年 3 月：逆走車両対策マニュアルを作成し、逆走発生時の通報体制や情報板表示内容を決定

平成 16 年 6 月：料金所前後の仕切りを徹底

平成 16 年 5 月：JH 本社に保全交通部長をリーダーとする逆走プロジェクトチーム（逆走 PT）を設置し、全国的な対策に着手

平成 19 年度 : 中国支社管内にて、IC 合流部にポストコーンを試行設置

平成 20 年度 : 社会貢献事業の枠組みで逆走センサーを西日本管内で 8 基設置

設置箇所 山陽道龍野西 IC・SA(上下)、山陽道吉備 SA(上)、山陽道佐波川 SA(下)、
徳島道阿波 PA(上)、九州道広川 SA(下)、大分道山田 SA(下)、
大分道別府湾 SA(上)